

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs(持続可能な開発目標)とは?

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。2001年のミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2030年達成を目標に策定されました。「誰ひとり取り残さない」をキーワードに、17のゴールと、さらに詳しい目標の169のターゲット、及び232の指標から構成されています。国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会など地球上の全ての人の取り組みで、誰にとっても住

みやすい環境、経済、社会の好循環が期待されています。日本では政府が2016年にSDGs推進本部を立ち上げ、ビジネスや地方創生などのアクションプランを掲げています。SDGsの理念に沿った企業活動やまちづくりは、その企業や地域の競争力を強くし、魅力をアップさせる可能性が大きいとされています。17のゴールは、貧困や不平等の撲滅、産業と技術革新の基盤づくり、気候変動への対策など幅広い分野に踏み込み、相互に関連し合い、相乗効果を生み出すように考えられています。

だれもが安心して、安全に住み続けられるまちにするために、持続可能な社会づくりが求められています。限られた資源を有効活用する循環型な暮らしや、住む人が生き生きと活躍できる環境づくりは、強靱でしなやかな社会につながっていきます。企業活動や地域活動においても、国連が目指す持続可能な開発目標「SDGs(エスディージーズ)」の取り組みが積極的に行われています。今回は「住み続けられるまちづくり・持続可能な経済成長」をテーマに、県内の団体の活動を通してSDGsを考えます。



荒川産業(株) 代表取締役社長 荒川健吉氏

荒川産業(株) 川産業グループは「地域資源の発掘」と「地域課題の解決」を使命とし、来年で創業百三十年目を迎えます。基幹業務である資源リサイクル事業の性格上、地域社会・経済が健全でなければ自社の事業も成り立たない、という考えに立ち様々な取り組みを進めてきました。特に特徴的な三つの取り組みを紹介します。

様々な資源をリサイクル

収益金の一部で非営利団体支援

一点目は一九九二(平成四)年に開設した「リサイクルミュージアムくるりんこ」です。様々な資源のリサイクルがどのように行われるかを多数の展示品を用いて説明する資料館で、喜多方市の本社三階に開設しています。現在まで累計一万五千三百五十人に見学して頂いています。二点目は二十四時間、三百六十五日、いつでもどなたでも利用できる資源回収拠点「リサイクルボックス」です。古新聞・古雑誌・段ボール・空き缶などのいわゆる資源ごみについて、時間を問わず好きな時に回収して頂ける場所です。当社の資源リサイクル工場・工場・工場・各店舗に近接して設置されています。ゴミ収集日に出し忘れても安心して好評を得ています。スロープの店頭で資源を回収し、ポイントが付与する仕組みをよく目にする取組です。一方、当社はポイントを付与する代わりに、収益金の一部を基金化して地域の資源回収団体と地域活動を行う非営利団体へ活動資金の一部として助成させて頂いています。延べ二百二十七団体を、総額四百八十三万円を数えるに至りました。三点目は「NPO法人くるりんこ」の設立と障



HAMADOORI13 吉田 学氏

HAMADOORI13 (はまどおりサーティーン) 多様性を生かした魅力づくり

AMADOORI13は、いわき市三町村の若者を中心に発足した団体です。「隣の友だちをみんなで助けよう」という基本的な助け合いのもと、連携や情報交換を通して持続的な地域発展に貢献することを理念としています。現在、メンバーは約五十名。浜通り地区に住む人のみならず、この地域に思いを寄せる人たちの集まりで、多様な職種

連携で持続可能な地域へ

経営者、公務員、団体職員など、さまざまな人がいます。異業種のメンバーが話し合うからこそ見える課題もあり、違う角度から解決の糸口を見出せるのではないかと思っています。そのひとつとして今考えているのが「浜通りモデル」としてのサブライチェーンの構築です。一次産業など原材料の提供者から最終需要者に至る全ての過程の業務を二つのビジネスプロセスとして捉え直し、付加価値を高めていく。浜通りはイノベーション・コースト構想で新産業の創出も見込まれており、サブライチェーンにおいても新たなビジネスモデルを生み出せるのではないかと考えています。持続可能な社会をつくるために、原発事故の影響を大きく受けた町村で

人口の増加も課題です。私たちは未来のまちを担う人材育成のため、若者への起業支援事業を行います。浜通りの地域が手を携え、多様な価値観のもと、住みたいと思える魅力の創出と発信を続けていきます。持続可能な社会をつくるために、原発事故の影響を大きく受けた町村では人口の増加も課題です。私たちは人と人のつながりを大切にしながら、ふるさとに帰りたい、このまちで暮らしたいと思えるような魅力づくりに取り組めます。さらに人材育成にも力を入れ、若者への起業支援事業を行います。会名のアルファベットの一部に「DOOR(ドア)」とあるように、地域の未来への扉を開いていきたいと思っています。



資源の再利用を説明するリサイクルミュージアムくるりんこ

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

「強靱なインフラを備え、持続可能な産業を推進する」という目標を掲げ、2030年までに、資源利用効率を向上させることや、環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じて、インフラの改良や産業の改善に取り組み、持続可能性を向上させることを目標としています。

11 住み続けられるまちづくりを

「都市と人間の居住地を包摂的、安全かつ持続可能にする」をゴールとする。全が適切で安全かつ安価な住宅及び基本的サービスにアクセスできるようにすることや、脆弱な立場にある人々のニーズに配慮し、公共交通機関の拡大などを通じ、安全で利用しやすい持続可能な輸送システムの構築などが掲げられています。

13 気候変動に具体的な対策を

「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」をゴールに、気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応能力を強化すること、気候変動の緩和、適応、影響の軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力と制度機能を改善することなどを目標としています。

15 陸の豊かさも守ろう

「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林、草地、湿地、山、乾燥地などの陸地生態系と内陸淡水生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保すること」などを掲げています。



各地域の課題について意見を出し合うメンバー